



5年生「水俣に学ぶ肥後っ子教室」

熊本県内の5年生は、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むために、実際に水俣市を訪問します。帯西5年生の「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、本日見学旅行にいらっしゃいました。私も水俣で学ぶことができ、実際に現地を訪れることの大切さを改めて実感しました。

5年生は、昨年度、今の6年生から水俣の学習発表を聞いていたため、興味をもって事前学習を行いました。総合的な学習の時間などで課題を設定し、調べ学習に取り組み、まとめたことをミニ発表会として、学年の枠を超えて取り組んできました。今回の現地での学びの様子からは、子供たちの学習の成果を感じ取ることができました。

午前中の環境学習は、環境センターの中村先生が担当され、地球温暖化について詳しく、そしてわかりやすく教えていただきました。地球を直径1mの球体にすると、660mlの水しかないことや、空気の層は1mmしかないことを教えてもらうと、子供たちの口から感嘆の声が漏れました。そして、子供たちも最後に明日からできる環境への優しい取り組みの目標を考えていました。一例を紹介すると「物を大切にする。」「使わない電気のコンセントはできるだけ抜く。」「ゴミを分別する。」「電子家電の活用頻度を減らす。」など子供たちの環境へ取り組みへの意欲が高まったことを感じました。中村先生へのお礼として、代表の子供が「心に残ったことは今は台風が増え、その原因は私たち人間なので、環境をよくするために、学校ではボランティアをしたり、家ではごみの分別に取り組んだりしたいです。」と述べ、学びを生活へ生かそうという気持ちが伝わってきました。

午後に行われた、語り部の永本さんは、胎児性水俣病患者として生きてきた自身の人生について語られました。永本さんのお父さんがチツソに勤められ、お母さんもお姉さんも関連企業に勤められるという中で、辛い思いを声に出して言うことができなかったことを語られました。その後、様々な偏見・差別を味わわれ、その理不尽さを訴えられると共に、家族や支えてくださった方への感謝の思いも語られました。語り部さんのお話を聞いた代表の子供は「いじめや差別をせず、学んだことを4年生や家族にも伝えたいと思いました。これから永本さんのように、前向きに生きていきたいと思えます。そして、周りの人への感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。」とお礼の言葉を述べていました。

また、5年生は、今後も社会科で公害について学習しますので、実際に水俣市を訪問し、水俣病資料館や環境センター等で公害被害から環境再生へと立ち上がる水俣の姿を学習したことで、学習効果が高まることも期待できます。

